

第2回 2026年9月1日（火）

ホライズン・ヨーロッパでつなぐ欧州と日本

本セッションでは、欧州と日本の専門家が各々の知見を共有し、新たなアイデアを紹介するとともに、国際的な協働の可能性を探ります。講演では、スマート農業、データ駆動型の都市イノベーション、そしてUTAのプロジェクト経験を取り上げます。参加者の皆さまには、研究・技術・パートナーシップがEU・日本間のプロジェクトを成功へ導き、ホライズン・ヨーロッパを通じて新たな機会を切り拓く道筋をご覧ください。

9:00–10:30 CEST

16:00–17:30 JST

所要時間 90分

アジェンダ

9:00–9:05

CEST

16:00–16:05

JST

開会挨拶・イントロダクション

米澤 拓郎 博士・名古屋大学 准教授

開会のご挨拶に続き、本ウェビナーの目的と参加者の皆さまにお持ち帰りいただける内容について簡単にご説明します。

9:05–9:20

CEST

16:05–16:20

JST

UTAエコシステム：イノベーションから社会実装へ

ロジャー・リー 博士・Urban Technology Alliance CTO / STS CEO

Urban Technology Alliance（アーバン・テクノロジー・アライアンス）のビジョン、ミッション、国際ネットワークをご紹介します。都市・大学・研究機関・企業の連携が、都市のイノベーションを実社会のソリューションへと転換していく道筋をお示しします。

9:20–9:35

CEST

16:20–16:35

JST

IEEE 2992-2025によるAI対応スマート農業：相互運用可能なデータからデジタルツインへ

西 宏章 教授・慶應義塾大学 教授

本講演では、スマート農業、データ共有、デジタル技術における最新動向と考え方をご紹介します。この分野におけるイノベーション推進の方策を探ります。

9:35–9:50

CEST

16:35–16:50

JST

スマートシティのためのビッグデータ統合

天笠 俊之 教授・筑波大学 教授

本講演では、多様な都市データをいかに統合し、よりスマートな都市の実現につなげるかを取り上げます。複数のデータソースを統合・管理する際の主要な課題を整理し、大規模言語モデル（LLM）によって可能となった近年の進展を示すとともに、データ駆動型の都市イノベーションにおける新たな機会についてお話しします。

9:50–10:05

CEST

16:50–17:05

JST

機会から申請へ：EU助成公募と実践的ガイダンス

ベルトラン・コピニョー・Kentyou オペレーションズ・マネージャー

EU・日本協力に関連する今後のEU助成機会を概観します。主な公募を取り上げるとともに、機会の見極め方、適切なパートナーの探し方、説得力あるホライズン・ヨーロッパ申請書の準備について実践的なガイダンスを提供します。

10:05–10:20

CEST

17:05–17:20

JST

UTAのEUプロジェクト経験：コンソーシアムから実証まで

マリーナ・ゴロベイ 博士・Urban Technology Alliance スマートシティ・プロジェクトマネージャー

Cognifog、Urban-Flow、MICADなど、UTAが参画するEUプロジェクトをご紹介します。国際的なチームがアイデアとパートナーシップを、実証プロジェクトと実社会での成果へと転換していく過程をお示しします。

10:20–10:30

CEST

17:20–17:30

JST

質疑応答・閉会挨拶

参加者の皆さまからのご質問をお受けし、ウェビナーで扱ったテーマについて意見交換を行います。最後に閉会のご挨拶と、UTAへのコンタクト方法および今後のEU・日本協働の機会についてご案内します。

形式

オンライン

言語

英語、日本語

リアルタイム翻訳をご用意します。

プラットフォーム

Zoom

最大500名

参加登録

Eventbrite

EventBriteイベントページより。